

第22回群馬県新型コロナウイルス感染症対策本部会議 次第

日時：令和2年10月9日（金）

9：30～

場所：県庁7階 審議会議室

1 開 会

2 あいさつ

3 議 事

- (1) 「社会経済活動再開に向けたガイドライン（改訂版）」への市町村警戒度の導入について
- (2) 「社会経済活動再開に向けたガイドライン（改訂版）」に基づく警戒度の判断について
- (3) 「社会経済活動再開に向けたガイドライン（改訂版）」に基づく10月10日（土）以降の要請について
- (4) 各部局からの報告事項について
- (5) その他

4 閉 会

「社会経済活動再開に向けたガイドライン」への市町村警戒度の導入について（案）

R2.10.9 危機管理課、健康福祉部

1 改定内容

現行ガイドラインでは、全県一律の警戒度を運用している。

今般の東毛地域での感染者増加のような状況は、今後も想定される。

このため、感染者が急増した警戒地域に対し、下記の基準に基づき判断を行い、当該基準を超えた市町村に全県警戒度より上位（一段高い）の市町村警戒度を適用し、それに応じた要請を行うこととする。

2 地域（保健所・市町村）判断基準

人口規模の小さい町村に配慮するため、警戒地域を保健所単位、市町村単位と二段階で設定する。

1) 判断①：保健所判断基準

保健所単位で直近1週間の人口10万人当たりの新規感染者数、病床利用率を数値基準とし、感染拡大状況や感染経路不明者の状況を含めて総合的に判断する。

項目	判断基準
新規感染者数 (人口10万人当たり)	2.0人/日
医療提供体制 全県判断基準の病床稼働率	30%を超え、 かつ、上昇傾向

2) 判断②：市町村判断基準

判断①で基準を超過した保健所管内の市町村ごとに単位で直近1週間の人口10万人当たりの新規感染者数、病床利用率を数値基準とし、感染拡大状況や感染経路不明者の状況を含めて総合的に判断する。

項目	判断基準
新規感染者数 (人口10万人当たり)	3.5人/日
医療提供体制 全県判断基準の病床稼働率	30%を超え、 かつ、上昇傾向

3 市町村警戒度・要請内容

地域判断基準に基づき、判断②の基準を超えた市町村に上位（一段高い）の警戒度を設定し、市町村別に県民・事業者等に対し、当該「市町村警戒度」に応じ、必要な要請を行うものとする。

具体的な要請内容は、感染経路等の感染状況を詳細に分析した上で、個別に決定する。

別紙（要請イメージ）

4 市町村警戒度及び要請

市町村警戒度の適用にあたっては、該当市町村と協議を行った上で、知事が決定するものとする。

「社会経済活動再開に向けたガイドライン」における地域別警戒度の設定について

R 2 . 1 0 . 9 健康福祉部

1 地域別警戒度設定に当たっての考え方

(1) 客観的な数値

ア 感染状況

- ・直近1週間の人口10万人当たりの新規感染者数が、下記「2」の判断基準を上回っていること。

イ 医療提供体制

- ・県全体の病床稼働率が30%を超え、かつ、上昇傾向にあること。
(警戒度3：病床稼働率40%)

(2) 総合的な状況

- ・感染拡大状況や感染経路不明者の状況などを総合的に判断すること。

2 新規感染者の判断基準(※)について

	判断基準	考え方	元々の基準	
			比較換算値	元の基準
第1段階 (保健所単位)	新規感染者数 2.0人/日 (人口10万人当たり)	<ul style="list-style-type: none"> ・県レベルの判断基準の2倍 ・国設定の「ステージⅢ」相当 ・長野県(地域別警戒度判断基準) 	2.0人/日 2.1人/日 2.5人/日	(県全体で)20人/日 15人/10万人/週
第2段階 (市町村単位)	新規感染者数 3.5人/日 (人口10万人当たり)	<ul style="list-style-type: none"> ・国設定の「ステージⅣ」相当 ・関東地方の都県への移動制限 ・大泉町緊急事態宣言 	3.5人/日 5.0人/日 11.9人/日	25人/10万人/週 (町全体で)5人/日

※人口規模の小さい町村に配慮するため、警戒地域を保健所単位、市町村単位と二段階で設定することが適当である。まずは、第1段階の保健所単位で警戒度を判断し、その後、第2段階の市町村単位で警戒度を判断する。

市町村警戒度の導入

現行ガイドラインによる全県警戒度

+

NEW

市町村警戒度

客観的な数値の項目		内容
1 感染状況	(1)新規感染者数	平均 20 人/日
	(2)経路不明の感染者数	感染経路不明 50 %
	(3)検査の陽性率	平均 7 %
2 医療提供体制	(1)重症例への診療体制	①人工呼吸器使用 1 / 2 ②うちECMO使用 1 / 3
	(2)病床の稼働率 (302床中)	警戒度1 15 %未満 警戒度2 15 %以上 警戒度3 40 %以上 警戒度4 70 %以上



上記の客観的な数値と総合的な状況を踏まえた上で総合的に判断を行い、「**全県警戒度1~4**」を決定

◆判断①：保健所判断基準

※判断①の基準超過保健所のみ判断②へ移行

項目	判断基準
保健所ごとの新規感染者数 (人口10万人当たり)	2.0人/日
左表2-(2)病床の稼働率	30%を超え、かつ上昇傾向

◆判断②：市町村判断基準

項目	判断基準
市町村ごとの新規感染者数 (人口10万人当たり)	3.5人/日
左表2-(2)病床の稼働率	30%を超え、かつ上昇傾向

判断②の基準を超え、感染拡大状況や感染経路不明者の状況などを総合的に判断を行い、全県警戒度より上位の「**市町村警戒度**」を決定

市町村警戒度に応じた要請

「市町村警戒度」を適用する市町村へは、感染経路等の感染状況を詳細に分析した上で、個別に決定した要請を行う。
 ※行動基準に例示したすべての事項について要請するものではない。
 上記適用以外の市町村へは、「全県警戒度」に基づく要請を行う。

	警戒度	個人			事業者	
		外出	県外移動	イベント	休業等	勤務形態
全県警戒度「2」の場合	4	×	×	×	・感染拡大の恐れのある業種の施設等への休業要請や営業時間の短縮要請 ・高齢者施設や病院等での面会の禁止	テレワーク(7割目標)、時差出勤等を強く推奨
「市町村警戒度」対象：〇〇町	3	△ ・3密となるリスクが高く、感染防止対策がとられていない場所へは外出自粛 ・高齢者や基礎疾患者は外出自粛	△ 感染拡大都道府県への不要不急の移動は自粛	△ 別表による	・感染防止対策がとられていない施設等への休業要請 ・高齢者施設や病院等での面会の禁止	テレワーク(5割目標)、時差出勤等を推奨
「全県警戒度」対象：34市町村	2	△ ・3密となるリスクが高い場所への外出十分注意 ・高齢者や基礎疾患者は外出を十分注意	△ 感染拡大都道府県は注意(特に拡大している場合は自粛)	△ 別表による	・高齢者施設や病院等での直接面会は十分注意(オンライン面会等の推奨)	テレワーク(3割目標)、時差出勤等を推奨
	1	○	○	△ 別表による		テレワーク、時差出勤等を推奨

〈市町村別警戒度3の要請イメージ〉

〇〇市町村にお住まいの県民、事業者に向けた要請

令和●年●月●日

群馬県知事 山本 一太

「社会経済活動再開に向けたガイドライン」の判断指標のうち、検査の陽性率及び病床の稼働率が高まり、特に、〇〇市町村における新規感染者数は、著しく増加しています。

これまでは、東京都などの大都市部との往来や夜の街が原因の感染、若年者の感染が目立ちましたが、最近は家庭・職場などの身近な場所での感染が拡がっており、外国籍の方の感染も増加しています。

今後、さらに感染が拡大すれば、高齢者や基礎疾患のある方などの重症患者の増加、病床の逼迫が起こる懸念があります。

このような状況の中、「社会経済活動再開に向けたガイドライン」の基づき、直近1週間の〇〇市町村の新規感染者数等から総合的に判断すると、〇〇市町村の警戒度は全県警戒度2より一段高い警戒度3に達することとなります。

つきましては、同ガイドラインに基づき、〇〇市町村住民の皆様、事業者の皆様には次の点をお願いいたします。

〈要請の例〉

- ① 3密となるリスクが高く、感染防止対策がとられていない場所への外出自粛
- ② 高齢者や基礎疾患者は外出自粛
- ③ 友人・知人を招いてのホームパーティーや大人数での会食、飲み会等の自粛
- ④ 店舗等施設の感染防止対策を確かめ、対策が不十分な施設の利用は控えるよう要請
- ⑤ 感染防止対策がとられていない、施設等への休業要請
- ⑥ 高齢者施設や病院等での面会の自粛
- ⑦ テレワーク(5割目標)、時差出勤等を推奨
- ⑧ 「学校再開に向けたガイドライン」等を踏まえた家庭等での感染症防止対策の徹底

※要請内容は、感染状況に応じて、必要となる「警戒度3」の内容を要請する。

「社会経済活動再開に向けたガイドライン」（改訂版）（案）

1 目的及び見直しの背景

5月14日（木）に政府の緊急事態宣言が解除され、県独自の「社会経済活動再開に向けたガイドライン」を策定し、全国一律に面的な要請が行われた外出自粛や休業要請を段階的に緩和してきたところである。

この間、新しい生活様式も実践されるようになり、県では医療提供体制の整備や県独自の感染防止対策などの取り組みを進めてきた。さらには、国の新型コロナウイルス感染症対策分科会から感染状況を区分するための新たな「指標」や対策等についての提言もなされた。

こうしたことから、外出自粛や休業要請などの活動制限をこれまでの一律的・面的な要請から、対象を絞った点（ピンポイント）による限定的な要請を行うことで、社会経済活動への影響は抑えつつ、感染拡大防止をはかるため従来のガイドラインを見直すこととした。

策定当初に想定したとおり、新型コロナウイルスの根絶は難しく、長期戦となっており、社会経済活動の再開にあわせるように第2波という見方もできる感染再拡大の状況がある中、感染拡大防止と社会経済活動の再開とのバランスをとりながらニューノーマルな社会の実現を目指していくこととする。

2 基本的な考え方

- 県民や事業者への外出自粛や休業要請などの活動制限は、極力、回避することを基本として、要請する場合であっても一律ではなく限定的な制限とする。
- 高齢者や基礎疾患のある方、児童・生徒については、感染した場合の影響も考慮し、早い段階から警戒の呼びかけや対応を行うほか、クラスターの多発など急速な感染拡大が懸念される場合には、迅速に警戒度の引き上げや要請の強化を行う。
- 県民・事業者・行政が連携して新型コロナウイルス感染拡大防止対策に取り組むことが重要であり、活動制限の緩和・強化にあたっては、本ガイドラインに基づき実施する。

3 ガイドラインの構成

- 警戒度
県内の感染状況を踏まえ4段階（1～4）で設定します。
- 市町村警戒度
県内一部地域での感染拡大状況を踏まえ市町村単位で警戒度より上位に設定します。
- 判断基準
感染状況、医療提供体制を判断する「客観的な数値」と数値によらない「総合的な状況」の2つの要素から現状を評価します。
基準は、国の分科会の提案と県の病床確保計画とのバランスを取り、県の実態に合ったものとしました。
- 行動基準
県民、事業者の皆様をお願いする行動です。警戒度に応じて想定し得る要請内容を示します。
- ◎警戒度変更のルール
判断基準によって現状を2週間の単位で評価し、警戒度を決定します。その警戒度に応じた行動基準を要請します。
※感染状況の悪化等の理由で警戒度を上げる場合、市町村警戒度を適用する場合には2週間を待たずに迅速に判断します。
※市町村警戒度を適用する場合には、該当市町村と協議を行った上で、知事が決定するものとします。

4 施行日

令和2年5月15日（金）策定

令和2年8月27日（木）改訂

※県内・近隣都県の感染者の状況、国の基本的対処方針等の変更により、内容を修正することがあります。

各警戒度における感染状況と対応方針

警戒度	感染の状況	具体的な状況例	感染防止対応方針
4	<ul style="list-style-type: none"> ・県内で爆発的な感染拡大あるいは、拡大の恐れがある ・医療提供体制へ深刻な負荷 	<ul style="list-style-type: none"> ・病院や高齢者施設間において大規模かつ深刻なクラスター連鎖が発生 ・高齢者や高リスク者が大量に感染し、多くの重症者及び死亡者が発生 ・公衆衛生体制及び医療提供体制へ深刻な負荷 	<ul style="list-style-type: none"> ○感染リスクに特別警戒が必要 ○広範な活動制限 ・外出自粛や施設等に対する使用停止(休業)等の要請、営業時間の短縮要請 ・緊急事態宣言(特措法に基づく)による緊急事態措置の実施を検討
3	<ul style="list-style-type: none"> ・県内の感染者の急増あるいは、急増の恐れがある ・医療提供体制に大きな負荷 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスターが県内各地域で多発する ・病院や高齢者施設においてもクラスターが発生 ・高齢者や高リスク者が感染し、医療提供体制への負荷が大きい 	<ul style="list-style-type: none"> ○感染リスクに警戒が必要 ○部分的な活動制限 ・一部外出自粛を要請 ・感染防止対策がとられていない施設等に対する使用停止(休業)等の要請
2	<ul style="list-style-type: none"> ・県内の感染者の漸増 ・都内や近県で感染拡大 ・医療提供体制への負荷の蓄積 	<ul style="list-style-type: none"> ・県内の各地域で点的に感染者が発生 ・3密となるリスクの高い場所でクラスターが度々発生 ・保健所などの公衆衛生体制及び医療提供体制への負荷が蓄積しつつある 	<ul style="list-style-type: none"> ○感染リスクに、十分な注意が必要 ・慎重な行動を要請 ・特に高齢者等には十分な注意を要請 ・感染防止ガイドライン遵守の徹底を要請
1	<ul style="list-style-type: none"> ・県内感染者の散発的な発生 ・医療提供体制に特段の支障なし 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染者が発生するが、重症者は少ない ・保健所などの公衆衛生体制及び医療提供体制への負荷は小さい 	<ul style="list-style-type: none"> ○感染リスクに留意が必要 ・新しい生活様式の実践・定着を推進 ・接触確認アプリ「COCOA」、LINE「新型コロナ対策パーソナルサポート」の利用を推奨

※感染防止対応方針の共通事項

・過度に活動自粛や要請を求めるのではなく、新しい生活様式の徹底を進めながら、県としての感染防止対策や医療提供体制を強化することにより対応

警戒度ごとの状況を理解しやすくするため、想定し得る感染状況と感染防止対応方針を示しています。

＜警戒度移行の判断基準 ①客観的な数値＞

項目		内容※	現在値 (○/○)	過去最高値 (7月以前)
1 感染 状況	(1)新規感染者数	平均 20 人/日	人	11.3 人
	(2)経路不明の感染者数	感染経路不明 50 %	%	50.0 %
	(3) 検査の陽性率	平均 7 %	%	18.9 %
2 医療 提供 体制	(1)重症例への診療体制	①人工呼吸器使用 1 / 2	○台中 台	—
		②うちECMO使用 1 / 3	○台中 台	2
	(2)病床の稼働率 (302床中)	警戒度1 15 %未満 警戒度2 15 %以上 警戒度3 40 %以上 警戒度4 70 %以上	%	74.8 %

※各判断基準は、現状の医療提供体制を逼迫させないことを基にしているため、今後の体制整備の進展に合わせ、基準も変動します。
※(1)～(3)は1週間の移動平均。

警戒度移行の判断基準は、「客観的な数値」と、「総合的な状況」の2つを設定しています。

①客観的な数値は、これまでの状況を分析した結果や、医療提供体制を逼迫させないという観点から、5項目（新規感染者数、経路不明の感染者数の割合、検査の陽性率、重症例への診療体制、病床の稼働率）を設定しました。

この5項目により、県内の感染状況や医療提供体制の状況を判断します。

特に医療提供体制を逼迫させないよう、2(2)病床の稼働率については、県の病床確保計画と合わせて、警戒度ごとに数値を設定しました。

新規感染者数は、すべての新規感染者が病院に入院するのではなく、宿泊療養施設に直接入居していただくケースも想定しています。また、病院の受入れ能力は5月に比べて3倍以上になっています。

＜警戒度移行の判断基準 ②総合的な状況＞

項目		内容
1 感染 状況	介護施設等の状況	介護施設等の発熱状況がモニターされていること。
	近隣都県の感染状況	東京都との往来が再開しても感染拡大の恐れがないこと。 (東京都の実効再生産数が1未満程度であること)
	群馬県の感染状況	群馬県の実効再生産数が1未満程度であること。
	入院状況	直近の状況を月単位でモニターする。
	クラスターの発生状況	クラスターに対し、迅速な実態把握と対策が取られていること。
2 医療 提供 体制	検査件数	感染状況に応じて、必要な検査を実施できる体制が整備されていること。
	院内感染制御	病院が、相当数のPPEの備蓄があること。 院内感染に対し、迅速な実態把握と対策が取られていること。
	一般医療への影響	治療の先伸ばしによる悪影響をモニターし、問題がないこと。
	疑似症患者への医療等	疑似症患者の入院状況
	軽症者等の宿泊療養施設の確保等	感染者数に対して、十分な室数が確保できていること。

警戒度移行の判断基準は、現実の動きは数値だけで計れるものではないため、数値によらない総合的な状況をもう一つの判断要素として取り入れています。

県の感染の特徴として、亡くなられた方のほとんどが施設に入居されていた高齢者ということです。介護施設は、特に注意を払う必要があります。

また、交通の要衝である本県の地勢的な事情に鑑み、東京都や近隣県の状況にも注目しつつ、県内の状況を判断していきます。

さらに、クラスターに対し感染拡大防止のための迅速な実態把握と対策が必要となることから項目を追加しました。

＜市町村警戒度の判断基準(案)＞

◆判断①：保健所判断基準

※判断①の判断基準超過保健所のみ判断②へ移行

項目	判断基準
保健所ごとの新規感染者数 (人口10万人当たり)	2.0人/日※
医療提供体制：病床の稼働率 (302床中)	30%を超え、かつ上昇傾向

◆判断②：市町村判断基準

項目	判断基準
市町村ごとの新規感染者数 (人口10万人当たり)	3.5人/日※
医療提供体制：病床の稼働率 (302床中)	30%を超え、かつ上昇傾向

※直近1週間の移動平均

判断①、②においては、判断基準に加え、感染拡大状況や感染経路不明者の状況などを総合的に判断を行う。

警戒度移行の判断基準は、前項に示しているとおりの「客観的な数値」と「総合的な状況」の2つを設定しています。これらを総合的に評価をして警戒度を判断し、全県一律での行動基準に基づく要請をしています。

これまでの感染状況などから、県内の一部地域で新規感染者数が急増した場合にピンポイントで効果的な対処をするため、新たな判断基準を設定し、2段階で評価・判断を行う方式により市町村警戒度を設定することとします。

まずは、県内保健所ごとに判断基準に基づき評価を行い、警戒すべき保健所(地域)をスクリーニングし、感染状況の推移を観察していきます。次に、判断基準を超過したと判断された保健所の管轄する市町村ごとに判断基準に基づき評価を行います。その結果、判断基準を超過したと判断された市町村に対して、「市町村警戒度」を適用するものとします。

なお、各判断においては、判断基準のほか、感染症危機管理チームの意見聴取、感染拡大状況や感染経路不明者の状況などを総合して評価を行い判断することとします。

この判断基準に基づき、これまでの全県一律の警戒度とは別に、感染拡大に特に警戒をすべき市町村へ個別に市町村警戒度を適用します。

※「市町村警戒度」・・・前項の〈警戒度移行の判断基準〉に基づき判断された警戒度より上位(一段高い)の警戒度

※市町村警戒度を適用する場合には、該当市町村と協議を行った上で、知事が決定するものとする。

＜4段階の警戒度と行動基準＞

警戒度	個人			事業者		【参考】 学校
	外出	県外移動	イベント	休業等	勤務形態	
4	×	×	×	<ul style="list-style-type: none"> ・感染拡大の恐れのある業種の施設等への休業要請や営業時間の短縮要請 ・高齢者施設や病院等での面会の禁止 	テレワーク(7割目標)、時差出勤等を強く推奨	<ul style="list-style-type: none"> ・感染状況等に応じて学校単位もしくは地域や全県で休業等(部活自粛)
3	△	△	△	<ul style="list-style-type: none"> ・感染防止対策がとられていない施設等への休業要請 ・高齢者施設や病院等での面会の禁止 	テレワーク(5割目標)、時差出勤等を推奨	<ul style="list-style-type: none"> ・学校単位で分散登校、授業短縮、時差登校等(部活一部制限) ただし感染状況等によっては通常登校
2	△	△	△	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者施設や病院等での直接面会は十分注意(オンライン面会等の推奨) 	テレワーク(3割目標)、時差出勤等を推奨	通常登校 ただし感染状況等に応じて学校単位で分散登校等
1	○	○	△		テレワーク、時差出勤等を推奨	通常登校

※1 全段階で「新しい生活様式」を実践、多様な感染防止対策(業界ごとの感染防止ガイドラインなど)を徹底
 ※2 感染状況や国の基本的対処方針に基づき、部分的に上位の警戒度の要請等を行う場合あり

行動基準は、個人・事業者の皆様にご各警戒度において想定し得る要請事項を示しています。個人の行動基準は、「外出」・「県外移動」・「イベント」、事業者の行動基準は、「休業等」・「勤務形態」を例示しています。

自粛は「×」、条件付で認めるものは「△」、活動を認めるものは「○」で表記しています。警戒度4は、県民の皆様には、不要不急の外出自粛要請を行い、事業者の皆様には、感染拡大の恐れのある業種の施設等への休業要請や営業時間の短縮要請を行います。

警戒度3は、県民の皆様には、3密となるリスクが高く、感染防止対策がとられていない場所への外出自粛要請を行います。事業者の皆様には、感染防止対策がとられていない施設等への休業要請を行います。

警戒度2は、県民の皆様へ外出自粛要請は行いませんが、3密となるリスクが高い場所への外出は十分注意してください。また、県をまたぐ移動も可能ですが、感染拡大傾向にある都道府県への移動は注意していただくとともに、特に拡大している場合には自粛をお願いします。

警戒度1は、高齢者や基礎疾患のある人も、社会交流が可能となります。

なお、感染状況や国の基本的対処方針等の内容によって、皆様にご別途要請を行う可能性があります。警戒度すべてにおいて、感染防止対策を徹底し、「新しい生活様式」を実践することが前提となります。特に、事業者の皆様は、感染防止対策(業界ごとの感染防止ガイドラインなど)の徹底と「ストップコロナ!対策認定制度」への登録をお願いします。

※市町村警戒度を適用する市町村へは、感染経路等の感染状況を詳細に分析した上で、個別に決定した要請を行います。

＜行動基準一覧表＞

警戒度	個人	事業者	【参考】 学校
4	<ul style="list-style-type: none"> ・外出自粛 ※通院、食料買い出しを除く ・都道府県をまたいだ移動自粛 ・イベント開催自粛 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染拡大の恐れのある業種の施設等への休業要請や営業時間の短縮要請 ・テレワーク等を強く推奨(目標7割) ※時差出勤、自転車・自動車通勤 ・高齢者施設や病院等での面会禁止 ・イベントの開催自粛 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染状況等に応じて、学校単位もしくは、地域や全県で休業等 (部活自粛)
3	<ul style="list-style-type: none"> ・3密となるリスクが高く、感染防止対策がとられていない場所へは外出自粛 ・高齢者や基礎疾患者は外出自粛 ・感染の拡大している都道府県への不要不急の移動は自粛 ・一定条件のイベント開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染防止対策がとられていない施設等への休業要請 ・テレワーク等の推奨(目標5割) ※時差出勤、自転車・自動車通勤 ・高齢者施設や病院等での面会禁止 ・一定条件のイベント開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校単位で分散登校、授業短縮、時差登校等 (部活一部制限) <p>ただし感染状況等によっては通常登校</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ・3密となるリスクが高い場所への外出は十分注意 ・高齢者や基礎疾患のある人は不要不急の外出を十分注意 ・感染の拡大している都道府県への移動は注意(特に拡大している場合は自粛) ・一定条件のイベント開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・テレワーク等を推奨(目標3割) ※時差出勤、自転車・自動車通勤 ・高齢者施設や病院等での直接面会は十分注意(オンライン面会等の推奨) ・一定条件のイベント開催 	<p style="text-align: center;">通常登校</p> <p>ただし感染状況等に応じて、学校単位で分散登校等</p>
1	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や基礎疾患のある人も社会との交流が可能 ※物理的距離の確保、距離の確保が難しい機会は極力減らす ・全ての人が、混雑した場所には出来るだけ行かないようにする ・一定条件のイベント開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・テレワーク等を推奨 ※時差出勤、自転車・自動車通勤 ・高齢者施設や病院等での面会可能(オンライン面会等の推奨) ・特段の規制なく、就業が可能 ・一定条件のイベント開催 	<p style="text-align: center;">通常登校</p>

※1 全段階で「新しい生活様式」を实践、多様な感染防止対策(業界ごとの感染防止ガイドラインなど)を徹底

※2 感染状況や国の基本的対処方針に基づき、部分的に上位の警戒度の要請等を行う場合あり

(別表) イベントの開催制限について

警戒度3～1におけるイベント開催における行動基準は、国の基本的対処方針等を踏まえ、下表のとおり運用することとします。

また、感染拡大の兆候やクラスターの発生、緊急事態宣言が出た場合等、上限人数の変更、延期や中止等の協力要請など対策を強化するものとします。

県ガイドライン の警戒度	屋内	屋外
3～1	10人	20人
	50人	100人
	100人	200人
	1,000人	
	5,000人	
	上限なし	

[注1]

屋内は「収容率（定員に対する割合）」の50%以内、屋外は「十分な間隔（できれば2m）」を確保できること。

[注2]

「人数上限」と「収容率」はどちらか小さい方を限度とする。

[注3]

屋内・外ともに、座席等により位置が固定され、かつ収容定員の定めがある場合は、その半分程度以内とする。また、屋内・外ともに、座席等により位置が固定されず、または、収容定員の定めがない場合は、人と人との距離を十分確保する。

[注4]

開催上限人数について、国からの方針等により上記人数と異なる場合、詳細は必要に応じて本ガイドラインにより要請する。（※最新の要請内容を確認）

業種別ガイドラインの見直しを行い、必要な感染防止策が担保され、 感染防止上の取組が公表されている場合 (10月10日～)			
収容率	大声での歓声・声援等		例
	ないことを前提とする	100%以内	クラシック音楽コンサート、演劇等、舞踊、伝統芸能、芸能・演芸、公演、式典、展示会等
	想定される	50%以内 (※3)	ロック・ポップコンサート、スポーツイベント、公営競技、公演、ライブハウス等
人数上限	「5,000人」又は「収容定員の50%」の いずれか大きい方		

※1 地域の行事は、適切な感染防止策の下、実施可。
 ※2 全国的・広域的なお祭り、野外フェス等は、中止を含めて慎重に検討。
 ※3 異なるグループ間で1席開け、同一グループ（5人以下）内では座席間隔を設けなくともよい。
 ※4 業種別ガイドラインの見直しを行わず、必要な感染防止策が担保されない場合は、従前どおり、収容率[屋内：50%以内、屋外：十分な間隔]、上限人数[5,000人]のいずれか小さい方を上限とする。

＜警戒度移行の判断基準 ①客観的な数値＞

項目		内容※	現在値 (10/8)	過去最高値 (7月以前)
1 感染状況	(1)新規感染者数	平均 20 人/日	5.0 人	11.3 人
	(2)経路不明の感染者数	感染経路不明 50 %	42.9 %	50.0 %
	(3)検査の陽性率	平均 7 %	2.5 %	18.9 %
2 医療提供体制	(1)重症例への診療体制	①人工呼吸器使用 1 / 2	23台中 5 台	—
		②うちECMO使用 1 / 3	9台中 3 台	2
	(2)病床の稼働率 (305床中)	警戒度1 15 %未満 警戒度2 15 %以上 警戒度3 40 %以上 警戒度4 70 %以上	13.8 %	74.8 %

※各判断基準は、現状の医療提供体制を逼迫させないことを基にしているため、今後の体制整備の進展に合わせ、基準も変動します。

※(1)～(3)は**1週間**の移動平均。

警戒度移行の判断基準(②総合的な状況)について

健康福祉部 R2.10.8

項目	内容	評価	状況
1 感染 状況	介護施設等の状況	◎	【介護施設等の発熱モニターの状況】 ・対象 県内 全施設 の入居者・職員（県及び市町村所管）
	近隣都県の感染状況	△	【実効再生産数】 ・群馬大学大学院 内田准教授による推定値(10/3時点) 東京都 1. 01 群馬県 0. 92 ・参考：東洋経済オンラインによる推定値（10/5時点） 東京都 1. 13 群馬県 1. 00
	群馬県の感染状況		群馬県の実効再生産数が1未満程度であること
	入院状況	◎	【退院者の平均在院期間】 7月 11. 3日 8月 10. 0日 9月 8. 8日
	クラスターの発生状況	◎	【直近のクラスター発生状況】 8月 前橋市クラブアプレシオ・CLUB Rey、9月 日本発条(株)群馬工場
2 医療 提供 体制	PCR検査件数	◎	【1週間を平均とする1日当たりの検体採取能力（10/8現在）】 287件（最大ピーク時432件）
	院内感染制御	◎	【PPEの備蓄】 ・新型コロナウイルス感染症医療機関等情報支援システム（G-MIS）において、備蓄状況をモニター中
	一般医療への影響	◎	【一般医療への影響（10/5現在）】 ・治療上の 大きな影響は出ていない （感染症指定病院及び協力病院等に対するアンケート調査結果）
	疑似症患者への医療等	◎	【疑似症患者の入院者数（10/8現在）】 1人
	軽症者等の宿泊療養施設の確保等	◎	【宿泊療養者数/室数（10/8現在）】 0人/150室運用・1300室確保 8/5から150室を再稼働

警戒度2 における 要請

個人		
外出	県外移動	イベント
① 3密となるリスクが高い場所 ② 高齢者・基礎疾患者 外出は十分注意	東京都、沖縄県 不要不急の外出は 自粛	上限 5,000人 定員の50%以下
		を緩和

事業者		【参考】学校
休業等	勤務形態	
高齢者施設や 病院等での直接面会 十分注意 (オンライン面会等を推奨)	テレワーク 3割目標 時差出勤等 推奨	通常登校を継続 県外移動を自粛すべき地域 との対外試合等は自粛 ※ 全国大会の代替大会は除く

10月10日からの催物開催制限の緩和

業種別ガイドラインの見直しを行っていない場合 (8月1日～、現行どおり)		
	屋内	屋外
収容率	50%以内	十分な 間隔 (できれば2m)
人数上限	5,000人	

※1 地域の行事は、適切な感染防止策の下、実施可。
 ※2 全国的・広域的なお祭り、野外フェス等は、中止を含めて慎重に検討。

業種別ガイドラインの見直しを行い、必要な感染防止策が担保され、感染防止上の取組が公表されている場合 (10月10日～、緩和)			
収容率	大声での歓声・声援等		例
	ないことを前提とする	100%以内	
想定される	50%以内 (※3)		ロック・ポップコンサート、スポーツイベント、公営競技、公演、ライブハウス等
人数上限	「5,000人」又は「収容定員の50%」のいずれか大きい方		

※1 地域の行事は、適切な感染防止策の下、実施可。
 ※2 全国的・広域的なお祭り、野外フェス等は、中止を含めて慎重に検討。
 ※3 異なるグループ間で1席開け、同一グループ(5人以下)内では座席間隔を設けなくともよい。

群馬県「社会経済活動再開に向けたガイドライン（改訂版）」に 基づく要請について（案）（10月10日（土）以降）

1 要請を開始する日

令和2年10月10日（土）

2 要請する区域

群馬県内全域

3 ガイドライン警戒度

警戒度「2」

4 ガイドライン警戒度「2」における要請の概要

【社会経済活動再開に向けたガイドライン（改訂版）「4段階の警戒度と行動基準」より】

警戒度	個人			事業者		【参考】 学校
	外出	県外移動	イベント	休業等	勤務形態	
4	×	×	×	・感染拡大の恐れのある業種の施設等への休業要請や営業時間の短縮要請 ・高齢者施設や病院等での面会の禁止	テレワーク(7割目標)、時差出勤等を強く推奨	・感染状況等に応じて学校単位もしくは地域や全県で休業等(部活自粛)
3	△	△	△	・感染防止対策がとられていない施設等への休業要請 ・高齢者施設や病院等での面会の禁止	テレワーク(5割目標)、時差出勤等を推奨	・学校単位で分散登校、授業短縮、時差登校等(部活一部制限) ただし感染状況等によっては通常登校
2	△	△	△	・高齢者施設や病院等での直接面会は十分注意(オンライン面会等の推奨)	テレワーク(3割目標)、時差出勤等を推奨	通常登校 ただし感染状況等に応じて学校単位で分散登校等
1	○	○	△		テレワーク、時差出勤等を推奨	通常登校

※1 全段階で「新しい生活様式」を実践、多様な感染防止対策(業界ごとの感染防止ガイドラインなど)を徹底
 ※2 感染状況や国の基本的対処方針に基づき、部分的に上位の警戒度の要請等を行う場合あり

5 県民の皆様への要請

以下の事項について、ご協力をお願いします。

(1)外出について

- ・3つの密となるような感染リスクの高い店舗や場所の利用は、十分注意してください。
- ・ホストクラブ、キャバクラなど接待を伴う飲食店を利用する際は、ホームページ、SNS や電話での事前確認をするほか、店頭での掲示や「ストップコロナ！対策認定ステッカー」などで、店側の感染防止対策を確かめ、対策が不十分な店舗の利用は控えてください。
- ・高齢者や基礎疾患のある方などハイリスクの方は、十分な注意をお願いします。
- ・外出の際は「(4)「新しい生活様式」等の実践について」に掲げる事項を厳守してください。

(2)県外への移動について

- ・直近1週間の感染者数が人口10万人あたり10人以上の都道府県への不要不急の移動は、自粛をお願いします。
(10/10～：沖縄県)
- ・関東地方で、直近1週間の感染者数が人口10万人あたり5人以上の都県への不要不急の移動は、自粛をお願いします。
(10/10～：東京都)

(3)イベント等の開催、参加について

- ・業種別ガイドラインの見直しを行っていない場合（8月1日～、現状どおり）
 - 【屋内】 5,000人以下、かつ収容定員の半分以下の人数にすること。
 - 【屋外】 5,000人以下、かつ人と人との間隔を十分確保すること。
(できるだけ2メートル)
- ・業種別ガイドラインの見直しを行い、必要な感染防止策が担保され、感染防止上の取組が公表されている場合は、開催制限を緩和します。
(10月10日～)
 - 【参加人数】 次の人数上限及び収容率要件による人数のいずれか小さい方を限度とします。
 - 【人数上限】
 - ア 収容定員が設定されている場合
5,000人又は収容定員の50%のいずれか大きい方を上限とします。

(この場合、収容定員が 10,000 人以下の場合は 5,000 人となり、収容定員が 10,000 人を超える場合は収容定員の 50%となります。)

イ 収容定員が設定されていない場合

次の【収容率要件】、ア、イにおける「収容定員が設定されていない場合」の例によります。

【収容率要件】

ア 大声での歓声、声援などが無いことを前提としうる場合

収容率の上限を 100%とします。

(ア) 参加者の位置が固定され、入退場時や区域内の適切な行動確保ができる場合は、収容定員までの参加人数とします。

(イ) 参加者が自由に移動できるものの、入退場時や区域内の適切な行動確保ができる場合

- ・収容定員が設定されている場合は、収容定員までの参加人数。
- ・収容定員が設定されていない場合は、密が発生しない程度の間隔（最低限、人と人とが接触しない程度の間隔）を空けることとします。

なお、参加者が自由に移動でき、かつ、入退場時や区域内の適切な行動確保ができない場合は、「祭りなどの行事の開催について」によることとします。

[大声での歓声、声援などが無いことを前提としうるイベントの例]

音 楽	クラシック音楽、歌劇、楽劇、合唱、ジャズ、吹奏楽、民族音楽、歌謡曲等のコンサート
演 劇 等	現代演劇、児童演劇、人形劇、ミュージカル、読み聞かせ、手話パフォーマンス 等
舞 踊	バレエ、現代舞踊、民族舞踊 等
伝 統 芸 能	雅楽、能楽、文楽・人形浄瑠璃、歌舞伎、組踊、邦舞 等
芸能・演芸	講談、落語、浪曲、漫談、漫才、奇術 等
講演・式典	各種講演会、説明会、ワークショップ、各種教室、行政主催イベント、タウンミーティング、入学式・卒業式、成人式、入社式 等
展 示 会	各種展示会、商談会、各種ショー
そ の 他	映画館、美術館、博物館、動植物園、水族館、遊園地 等

イ 大声での歓声、声援などが想定される場合

収容率は、次のとおりとします。

(ア) 参加者の位置が固定され、入退場時や区域内の適切な行動確保ができる場合

- ・異なるグループ又は個人間では、座席を一席は空けることとしつつ、同一グループ（5人以内に限る。）内では座席等の間隔を設ける必要はありません。この場合、参加人数は、収容定員の50%を超えることもありうる。

(イ) 参加者が自由に移動できるが、入退場時や区域内の適切な行動確保ができる場合

- ・収容定員が設定されている場合は、収容定員の50%までの参加人数とします。
- ・収容定員が設定されていない場合は、十分な人と人との間隔（1m）を空けていること。

なお、参加者が自由に移動でき、かつ、入退場時や区域内の適切な行動確保ができない場合は、「祭りなどの行事の開催について」によることとします。

[大声での歓声、声援などが想定されるイベントの例]

音 楽	ロックコンサート、ポップコンサート 等
ス ポ ー ツ イ ベ ン ト	サッカー、野球、大相撲 等
公 営 競 技	競馬、競輪、競艇、オートレース
公 演	キャラクターショー、親子会講演 等
ライブハウス ナイトクラブ	ライブハウス・ナイトクラブにおける各種イベント
そ の 他	遊園地（絶叫系のアトラクション）

・祭りなどの行事の開催について

ア 祭り、花火大会、野外フェスティバル等で、全国的又は広域的な人の移動が見込まれるものや、参加者の把握が困難なものについては、中止を含めて慎重に検討・判断してください。開催する場合は、十分な人と人との間隔（1m）を設けることとし、当該間隔の維持が困難な場合は、開催について慎重に判断してください。

イ 盆踊り等の地域の行事で、全国的又は広域的な人の移動が見込まれない

ものや、参加者がおおよそ把握できるものは、参加人数の制限はありません。適切な感染防止策を講じて開催してください。

- ・ イベントの開催にあたっては別表に掲げる適切な感染防止対策の徹底をお願いします。
- ・ 全国的な移動を伴うイベント又はイベント参加者が 1,000 人を超えるようなイベントの開催を予定する場合には、そのイベントの感染防止策等について県に事前相談してください。

(4)「新しい生活様式」等の実践について

- ・ 「人と人との距離の確保」「マスクの着用」「手洗いによる手指衛生」をはじめとした基本的な感染対策については、引き続き継続した取り組みをお願いします。
- ・ 政府専門家会議で示された「人との接触を8割減らす、10のポイント」「新しい生活様式の実践例」を参考に、3つの「密」状態を回避するとともに、日々の生活を見直し、新たな感染防止策を実践してください。

(5)その他

- ・ 飲食店などにおいて大声で話したり、カラオケ、イベント、スポーツ観戦などで大声を出したりすることは控えてください。
- ・ 友人、知人を招いてのホームパーティーや大人数での会食、飲み会は避けてください。
- ・ 会食などで飲食店などを利用する場合は、座席間隔の確保や換気などの3密予防、従業員や利用者の手指消毒といった感染防止策に積極的に取り組んでいる店舗を利用してください。
- ・ 接触確認アプリ（COCOA）のインストールやLINE「新型コロナ対策パーソナルサポート」を積極的に活用してください。

6 事業者の皆様への要請

以下の事項について、ご協力をお願いします。

(1) 感染防止対策の徹底について

- ・ すべての事業者において、別表で掲げる感染防止対策例や、業界団体等で作成した感染拡大予防ガイドライン等を踏まえながら、適切な感染防止対策の徹底をお願いします。
- ・ 県独自の「ストップコロナ！対策認定制度」への申請・登録を積極的に進めてください。
- ・ 業界団体等においては、業種や施設の種別ごとのガイドラインを作成し、所属

事業者や関係事業者へガイドラインに沿った感染防止対策の徹底を促すようお願いいたします。

※1 政府が公表している「業種別ガイドライン」や、本県が示す「各業界・施設毎の感染症対策ガイドライン作成例」を参考としてください。

※2 業界団体からガイドラインが示されていない業種の事業者や、業界団体等が存在しない業種の事業者についても、上記のガイドラインを参考として、適切な感染防止対策の徹底をお願いいたします。

- ・高齢者施設や病院等での直接面会は、十分に注意をお願いいたします。また、従事者への適切な感染防止対策の徹底をお願いいたします。

(2)接待を伴う飲食店における感染防止対策の徹底について

- ・ホストクラブ、キャバクラなど接待を伴う飲食店においては、「社交飲食業における新型コロナウイルス感染症拡大予防ガイドライン」を遵守し、当該店舗における感染防止対策をホームページやSNS、店頭での掲示などにより利用者に明示してください。

※「社交飲食業における新型コロナウイルス感染症拡大予防ガイドライン」については、全国社交飲食業生活衛生同業組合のHPを参照してください。

- ・「ストップコロナ！対策認定制度」への申請・登録を行ってください。

(3)勤務形態等について

- ・「新しい生活様式の実践例」を参考に、テレワークやローテーション勤務、時差通勤、オンライン会議の開催など、人との接触を減らすための取組を実践してください。

(4)その他

- ・従業員などが体調不良を訴えた場合には、休暇の取得を促し、併せて、速やかな医療機関への受診を促してください。
- ・従業員に対し、会食などで飲食店などを利用する場合は、感染防止ガイドラインなどに基づいて感染防止策を講じているなどの店舗を利用するよう促してください。
- ・接触確認アプリ（COCOA）のインストールやLINE「新型コロナ対策パーソナルサポート」を、従業員やお客様に対して積極的に活用するよう促してください。
- ・感染の恐れのある者を特定できない場合には、まん延を防止する観点から、施設名を自ら公表して利用者に検査や受診を呼びかけること等に協力してください。

【別表：適切な感染防止対策例】

※以下に掲げる対策例以外にも、それぞれの施設の状況や営業の形態等に応じ、適切な感染防止のための対策を実践してください。

(別表) 適切な感染防止対策例	
発熱者等の施設への入場防止	・ 来訪者、従業員の検温・体調確認を行い、発熱等の症状がある者や体調不良の者の入場制限(来訪者)、出勤停止(従業員)
	・ 発熱等の症状がある者は、イベントの参加や施設の利用を控える
接触確認アプリの利用	・ 来訪者は、接触確認アプリをインストールをし、事業者は、それを促す
	・ 事業者は、来訪者の連絡先等を把握する(イベント開催の際には徹底すること)
3つの「密」(密閉・密集・密接)の防止	・ 店舗利用者の入場制限、滞在時間の制限を設ける
	・ 十分な座席間隔(四方を開けた席配置等)を確保する
	・ 入退出時、休憩場所、待合場所等での3密の環境を避ける
	・ 換気を行う(可能であれば2つの方向の窓を同時に開ける)
	・ 密集する会議の中止(対面による会議を避け、電話会議やビデオ会議を利用)
飛沫感染、接触感染の防止	・ 来訪者、従業員のマスク着用(熱中症等対策が必要な場合を除く)、手指の消毒、咳エチケット、手洗いの励行
	・ 対面機会の削減(または、ビニールカーテン等の設置)
	・ 大声での会話が発生しない環境作り(利用者への呼びかけ、音響を最小限に設定等)
	・ 店舗・事務所内の定期的な消毒、キャッシュレスの利用
移動時の感染防止	・ ラッシュ対策(時差出勤、自家用車・自転車・徒歩等による出勤の推進)
	・ 従業員数の出勤数の制限(テレワーク等による在宅勤務の実施等)
	・ 出張の中止(電話会議やビデオ会議などを活用)、来訪者数の制限
	・ イベント参加(開催)にあたっては、移動中や移動先での感染防止のための行動を取る(よう呼びかける) ※イベントスタッフにも同様に呼びかける

「新しい生活様式」の実践例

(1) 一人ひとりの基本的感染対策

感染防止の3つの基本：①身体的距離の確保、②マスクの着用、③手洗い

- 人との間隔は、できるだけ2m（最低1m）空ける。
 - 会話をする際は、可能な限り真正面を避ける。
 - 外出時や屋内でも会話をするとき、人との間隔が十分とれない場合は、症状がなくてもマスクを着用する。ただし、夏場は、熱中症に十分注意する。
 - 家に帰ったらまず手や顔を洗う。
人混みの多い場所に行った後は、できるだけすぐに着替える、シャワーを浴びる。
 - 手洗いは30秒程度かけて水と石けんで丁寧に洗う（手指消毒薬の使用も可）。
- ※ 高齢者や持病のあるような重症化リスクの高い人と会う際には、体調管理をより厳重にする。

移動に関する感染対策

- 感染が流行している地域からの移動、感染が流行している地域への移動は控える。
- 発症したときのため、誰とどこで会ったかをメモにする。接触確認アプリの活用も。
- 地域の感染状況に注意する。

(2) 日常生活を営む上での基本的生活様式

- まめに手洗い・手指消毒 咳エチケットの徹底
- こまめに換気（エアコン併用で室温を28℃以下に） 身体的距離の確保
- 「3密」の回避（密集、密接、密閉）
- 一人ひとりの健康状態に応じた運動や食事、禁煙等、適切な生活習慣の理解・実行
- 毎朝の体温測定、健康チェック。発熱又は風邪の症状がある場合はムリせず自宅で療養



(3) 日常生活の各場面別の生活様式

買い物

- 通販も利用
- 1人または少人数ですいた時間に
- 電子決済の利用
- 計画をたてて素早く済ます
- サンプルなど展示品への接触は控えめに
- レジに並ぶときは、前後にスペース

娯楽、スポーツ等

- 公園はすいた時間、場所を選ぶ
- 筋トレやヨガは、十分に人との間隔をもしくは自宅で動画を活用
- ジョギングは少人数で
- すれ違うときは距離をとるマナー
- 予約制を利用してゆったりと
- 狭い部屋での長居は無用
- 歌や応援は、十分な距離かオンライン

公共交通機関の利用

- 会話は控えめに
- 混んでいる時間帯は避けて
- 徒歩や自転車利用も併用する

食事

- 持ち帰りや出前、デリバリーも
- 屋外空間で気持ちよく
- 大皿は避けて、料理は個々に
- 対面ではなく横並びで座ろう
- 料理に集中、おしゃべりは控えめに
- お酌、グラスやお猪口の回し飲みは避けて

イベント等への参加

- 接触確認アプリの活用を
- 発熱や風邪の症状がある場合は参加しない

(4) 働き方の新しいスタイル

- テレワークやローテーション勤務 時差通勤でゆったりと オフィスはひろびろと
- 会議はオンライン 対面での打合せは換気とマスク

※ 業種ごとの感染拡大予防ガイドラインは、関係団体が別途作成